

第1章 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、豊田市総合計画の推進に向けた各種指標の現状値を把握するとともに、市民の市政に対する評価とこれからのまちづくりに対するニーズや意識を統計的に把握・分析することを目的とします。

2 調査項目

第8次豊田市総合計画（令和6年度まで）に関する指標と、第9次豊田市総合計画（令和7年度から）に関する指標に必要な調査を行うため、次の2種類の調査を実施しました。

調査票 A（主に第9次豊田市総合計画に関する調査）

① 回答者の属性に関する設問	10 問
② 豊田市のまち全般に関する設問	4 問
③ 普段の生活に関する設問	6 問
④ 災害への備えに関する設問	5 問
⑤ 活動等に関する設問	4 問
⑥ 豊田のまちづくりに関する設問	8 問

調査票 B（主に第8次豊田市総合計画に関する調査）

① 回答者の属性に関する設問	10 問
② 普段の生活に関する設問	6 問
③ 活動等に関する設問	3 問
④ 施策の満足度に関する設問	1 問（13 施策）

3 調査方法と回収結果

（1）調査対象

令和7年4月末時点で豊田市在住3か月以上の満18歳以上の13,000人（調査票A・Bそれぞれ6,500人ずつ）を対象としました。

（2）抽出方法

各地区の分析を行う際の統計的な精度を高めるため、地区別の人口構成比に基づき住民基本台帳から調査票A、調査票B合わせて11,653人を抽出しました。また、地区別の抽出数が300人に満たなかった9地区（石野、猿投、松平、旭、足助、稲武、小原、下山、藤岡）については、各地区300人になるように合計1,347人を追加抽出しました。

(3) 調査方法

調査票を郵送により配布しました。

また、回収は、郵送又はインターネットによる回答により行いました。

日本語の調査票の他に、英語、中国語、ポルトガル語、ベトナム語の調査票を作成し、配布・回収しました。

さらに、調査期間中に1回、お礼状を兼ねて未提出の方に対して調査票の回答を促すはがきを郵送しました。

(4) 調査期間

令和7年6月5日～6月26日

(5) 回収結果

調査票 A

有効配布数※1	有効回答数※2	有効回答率
6,483人	3,951人	60.9%

※1：配布した6,500通のうち住所不定等で返信された17通を除いています。

※2：各設問の回答者数は、地区別の補正係数をかけるため、3,481人となります。

補正係数に関しては、4(1)集計方法をご参照ください。

※2：「全体の回答が3割未満」又は「全体の回答が5割未満かつ問3を無回答」の場合は無効回答としました。

※2：インターネットによる回答数は1,615人（全体比40.9%）です。

調査票 B

有効配布数※1	有効回答数※2	有効回答率
6,491人	3,897人	60.0%

※1：配布した6,500通のうち住所不定等で返信された9通を除いています。

※2：各設問の回答者数は、地区別の補正係数をかけるため、3,445人となります。

補正係数に関しては、4(1)集計方法をご参照ください。

※2：「全体の回答が3割未満」又は「全体の回答が5割未満かつ問3を無回答」の場合は無効回答としました。

※2：インターネットによる回答数は1,626人（全体比41.7%）です。

4 集計方法と結果の表示方法

(1) 集計方法

3(2)のとおり、図表1-1の9地区に関しては、無作為抽出した数よりも多く配布したため、補正係数を用いて回答の重みを調整しています。

例 石野地区では、本来調査すべき無作為抽出数120に対して300票を送付しています。そのため、地区の対象数に対する抽出数の割合が他の地区と異なり、1つの回答の重みが変わります。そこで、地区別集計以外では、得られた回答数に補正係数0.4000をかけ、1つの回答を5分の2(0.4000)の回答として扱っています。

図表 1-1 追加抽出数と補正係数

中学校区	A:無作為抽出数	B:追加抽出数	C:配布数	D:補正係数 (A/C)
石野	120	180	300	0.4000
猿投	252	48	300	0.8400
松平	253	47	300	0.8433
旭	63	237	300	0.2100
足助	186	114	300	0.6200
稲武	54	246	300	0.1800
小原	89	211	300	0.2967
下山	110	190	300	0.3667
藤岡	226	74	300	0.7533

(2) 結果表示の留意点

- ① 図中の構成比(%)は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100.0%にはなりません。また、施策に対する満足度については、小数点第3位を四捨五入しています。
- ② 複数回答の場合の構成比(%)の合計は100.0%を超えます。
- ③ 判読不能の回答等は無回答に含めています。
- ④ 誤って指定数以上の選択肢を選択していた場合や本来回答すべきではない設問を回答してしまった場合は、集計に含めずに分析しています。
- ⑤ 各設問の全回答者数は、地区別の補正係数をかけているため、全体が調査票Aは3,481、調査票Bは3,445となります。そのため、地区別集計に表記した各地区の標本数の合計は全体集計の標本数と一致しません。
- ⑥ 一部の図表では、「無回答」を省略しています。また、設問・選択肢などの表現は意味が変わらない程度に一部省略している場合があります。

5 調査地区区分図

本調査における地区（中学校区）の区分は以下のとおりです。

図表 1-2 地区区分図

